

2021年度（令和3年度）

決算報告

自2021年4月1日
至2022年3月31日



目 次

1. 貸 借 対 照 表	1
2. 貸 借 対 照 表 内 訳 表	2
3. 正 味 財 産 増 減 計 算 書	3
4. 正 味 財 産 増 減 計 算 書 内 訳 表	4
5. キャッシュ・フロー計算書	5
6. 財 務 諸 表 に 対 す る 注 記	6 ~ 10
7. 附 属 明 細 書	11
8. 財 産 目 録	12 ~ 13

監 査 報 告 書

1. 独 立 監 査 人 の 監 査 報 告 書	14 ~ 16
2. 監 査 報 告 書	17

貸借対照表

(2022年3月31日現在)

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増減
I. 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	170,566,873	228,362,905	▲57,796,032
未収金	243,226,561	214,776,287	28,450,274
有価証券	—	100,000,000	▲100,000,000
貯蔵品	404,856	409,540	▲4,684
前渡金	79,721,319	15,501,256	64,220,063
前払費用	2,857,710	10,191,980	▲7,334,270
立替金	5,320	1,387	3,933
流動資産合計	515,904,328	589,520,486	▲73,616,158
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
土地	1,531,552,889	1,531,552,889	—
普通預金	447,111	447,111	—
基本財産合計	1,532,000,000	1,532,000,000	—
(2) 特定資産			
建物	430,971,671	440,692,834	▲9,721,163
構築物	25,001,553	26,745,844	▲1,744,291
建物附属設備	56,476,565	62,880,064	▲6,403,499
什器備品	17,078,671	18,447,147	▲1,368,476
投資有価証券	6,404,368,867	6,804,611,846	▲400,242,979
関連会社株式	682,250,000	682,250,000	—
普通預金	189,687,063	20,741,480	168,945,583
特定資産合計	8,369,253,900	8,412,541,315	▲43,287,415
(3) その他固定資産			
建物附属設備	19,612,819	21,775,005	▲2,162,186
什器備品	6,575,166	5,820,176	754,990
商標権	346,095	499,915	▲153,820
差入保証金	8,846,143	8,846,143	—
出資金	63,296,673	63,097,173	199,500
その他固定資産合計	98,676,896	100,038,412	▲1,361,516
固定資産合計	9,999,930,796	10,044,579,727	▲44,648,931
資産合計	10,515,835,124	10,634,100,213	▲118,265,089
II. 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	115,178,040	53,112,438	62,065,602
預り金	5,893,363	6,294,186	▲400,823
未払利息	400,749	420,754	▲20,005
賞与引当金	23,617,060	18,262,400	5,354,660
未払法人税等	70,000	70,000	—
未払消費税等	—	1,804,200	▲1,804,200
流動負債合計	146,211,528	97,040,829	49,170,699
2. 固定負債			
職員預り金	48,660,536	51,224,413	▲2,563,877
退職給付引当金	92,777,140	90,238,210	2,538,930
役員退職慰労引当金	67,326,680	64,190,850	3,135,830
固定負債合計	208,764,356	205,653,473	3,110,883
負債合計	354,975,884	302,694,302	52,281,582
III. 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
寄付金	30,000	30,000	—
指定正味財産合計	30,000	30,000	—
(うち基本財産への充当額)	(30,000)	(30,000)	—
(うち特定資産への充当額)	(—)	(—)	—
2. 一般正味財産	10,160,829,240	10,331,375,911	▲170,546,671
(うち基本財産への充当額)	(1,531,970,000)	(1,531,970,000)	(—)
(うち特定資産への充当額)	(8,369,253,900)	(8,412,541,315)	(▲43,287,415)
正味財産合計	10,160,859,240	10,331,405,911	▲170,546,671
負債及び正味財産合計	10,515,835,124	10,634,100,213	▲118,265,089

貸借対照表内訳表

(2022年3月31日現在)

(単位:円)

科 目	公益目的事業会計	収益事業等会計	法人会計	内部取引消去	合計
	公1	収1			
I. 資産の部					
1. 流動資産					
現金預金			170,566,873		170,566,873
未収金	224,282,402	10,936,559	8,007,600		243,226,561
内部貸付金		16,388,196	754,807,923	▲771,196,119	-
未収利息	18,521,279		600,410		19,121,689
有価証券					
貯蔵品	404,856				404,856
前払費用	79,651,535		69,784		79,721,319
立替金			2,857,710		2,857,710
			5,320		5,320
流動資産合計	322,860,072	27,324,755	936,915,620	▲771,196,119	515,904,328
2. 固定資産					
(1) 基本財産					
土地	1,531,552,889				1,531,552,889
普通預金	447,111				447,111
基本財産合計	1,532,000,000				1,532,000,000
(2) 特定資産					
建物	430,971,671				430,971,671
構築物	25,001,553				25,001,553
建物附属設備	56,476,565				56,476,565
什器備品	17,078,671				17,078,671
投資有価証券	2,904,520,867		3,499,848,000		6,404,368,867
関連会社株式	682,250,000				682,250,000
出資金	563,419,510				563,419,510
普通預金	189,535,063		152,000		189,687,063
特定資産合計	4,869,253,900		3,500,000,000		8,369,253,900
(3) その他固定資産					
建物附属設備			19,612,819		19,612,819
什器備品			6,575,166		6,575,166
商標権			346,095		346,095
差入保証金			8,846,143		8,846,143
出資金			63,296,673		63,296,673
その他固定資産合計			98,676,896		98,676,896
固定資産合計	6,401,253,900		3,598,676,896		9,999,930,796
資産合計	6,724,113,972	27,324,755	4,535,592,516	▲771,196,119	10,515,835,124
II. 負債の部					
1. 流動負債					
未払金	100,981,228	1,613,341	12,583,471		115,178,040
内部借入金	771,196,119			▲771,196,119	-
預り金			5,893,363		5,893,363
未払利息			400,749		400,749
前受金	1,052,316				1,052,316
賞与引当金			23,617,060		23,617,060
未払法人税等			70,000		70,000
流動負債合計	873,229,663	1,613,341	42,564,643	▲771,196,119	146,211,528
2. 固定負債					
職員預り金			48,660,536		48,660,536
退職給付引当金			92,777,140		92,777,140
役員退職慰労引当金			67,326,680		67,326,680
固定負債合計			208,764,356		208,764,356
負債合計	873,229,663	1,613,341	251,328,999	▲771,196,119	354,975,884
III. 正味財産の部					
1. 指定正味財産					
寄付金	30,000				30,000
指定正味財産合計	30,000				30,000
(うち基本財産への充当額)	(30,000)				(30,000)
(うち特定資産への充当額)	(-)				(-)
2. 一般正味財産					
	5,850,854,309	25,711,414	4,284,263,517		10,160,829,240
(うち基本財産への充当額)	(1,531,970,000)	(-)	(-)		(1,531,970,000)
(うち特定資産への充当額)	(4,869,253,900)	(-)	(3,500,000,000)		(8,369,253,900)
正味財産合計	5,850,884,309	25,711,414	4,284,263,517		10,160,859,240
負債及び正味財産合計	6,724,113,972	27,324,755	4,535,592,516	▲771,196,119	10,515,835,124

正味財産増減計算書 決算

(2021年4月1日～2022年3月31日)

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 特定資産運用収益			
特定資産受取利息	102,130,689	93,176,796	8,953,893
特定資産受取配当		136,450,000	▲ 136,450,000
② 受取会費			
受取会費	11,400,000	12,250,000	▲ 850,000
③ 観光文化振興事業収益(公益目的)			
観光文化振興事業収益	331,829,217	266,295,235	65,533,982
④ 調査研修事業収益(収益事業等)			
調査研修事業収益	34,238,639	20,783,000	13,455,639
⑤ 雑収益			
雑収益	6,544,445	3,007,239	3,537,206
経常収益計	486,142,990	531,962,270	▲ 45,819,280
(2) 経常費用			
① 観光文化振興事業費(公益目的)			
事業原価	187,323,602	147,984,622	39,338,980
人件費	292,407,726	276,033,015	16,374,711
事務費	6,343,637	6,768,231	▲ 424,594
施設費	57,067,821	44,678,877	12,388,944
諸雑費	9,019,971	8,206,079	813,892
② 調査研修事業費(収益事業等)			
事業原価	6,896,779	3,781,295	3,115,484
人件費	6,510,550	6,387,666	122,884
事務費	108,312	102,843	5,469
施設費	918,746	579,437	339,309
諸雑費	202,660	182,780	19,880
③ 管理費			
人件費	54,541,764	62,220,949	▲ 7,679,185
事務費	6,613,830	5,245,035	1,368,795
施設費	22,733,442	14,095,490	8,637,952
諸雑費	6,000,820	9,758,745	▲ 3,757,925
経常費用計	656,689,660	586,025,064	70,664,596
当期経常増減額	▲ 170,546,670	▲ 54,062,794	▲ 116,483,876
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	—	—	—
(2) 経常外費用			
什器備品除却損	1	2	▲ 1
経常外費用計	1	2	▲ 1
当期経常外増減額	▲ 1	▲ 2	1
当期一般正味財産増減額	▲ 170,546,671	▲ 54,062,796	▲ 116,483,875
一般正味財産期首残高	10,331,375,911	10,385,438,707	▲ 54,062,796
一般正味財産期末残高	10,160,829,240	10,331,375,911	▲ 170,546,671
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	—	—	—
指定正味財産期首残高	30,000	30,000	—
指定正味財産期末残高	30,000	30,000	—
III 正味財産期末残高	10,160,859,240	10,331,405,911	▲ 170,546,671

正味財産増減計算書内訳表 決算

(2021年4月1日～2022年3月31日)

(単位:円)

科目	公益目的事業会計	収益事業等会計	法人会計	内部取引 消去	合計
	公1	収1			
I 一般正味財産増減の部					
1. 経常増減の部					
(1) 経常収益					
① 特定資産運用収益					
特定資産受取利息	55,964,265		46,166,424		102,130,689
特定資産受取配当					
② 受取会費	5,700,000		5,700,000		11,400,000
受取会費					
③ 観光文化振興事業収益(公益目的)					
観光文化振興事業収益	331,829,217				331,829,217
④ 調査研修事業収益(収益事業等)					
調査研修事業収益		34,238,639			34,238,639
⑤ 雑収益					
雑収益	6,544,445				6,544,445
経常収益計	400,037,927	34,238,639	51,866,424		486,142,990
(2) 経常費用					
① 観光文化振興事業費(公益目的)					
事業原価	187,323,602				187,323,602
事件費	292,407,726				292,407,726
事務費	6,343,637				6,343,637
施設費	57,067,821				57,067,821
諸雑費	9,019,971				9,019,971
② 調査研修事業費(収益事業等)					
事業原価		6,896,779			6,896,779
事件費		6,510,550			6,510,550
事務費		108,312			108,312
施設費		918,746			918,746
諸雑費		202,660			202,660
③ 管理費					
事件費			54,541,764		54,541,764
事務費			6,613,830		6,613,830
施設費			22,733,442		22,733,442
諸雑費			6,000,820		6,000,820
経常費用計	552,162,757	14,637,047	89,889,856		656,689,660
当期経常増減額	▲152,124,830	19,601,592	▲38,023,432		▲170,546,670
2. 経常外増減の部					
(1) 経常外収益					
経常外収益計					
(2) 経常外費用					
什器備品除却損	1				1
経常外費用計	1				1
当期経常外増減額	▲1				▲1
3. 他会計振替額		▲6,882,825	6,882,825		—
当期一般正味財産増減額	▲152,124,831	12,718,767	▲31,140,607		▲170,546,671
一般正味財産期首残高	6,002,979,140	12,973,941	4,315,422,830		10,331,375,911
一般正味財産期末残高	5,850,854,309	25,692,708	4,284,282,223		10,160,829,240
II 指定正味財産増減の部					
当期指定正味財産増減額					
指定正味財産期首残高	30,000				30,000
指定正味財産期末残高	30,000				30,000
III 正味財産期末残高	5,850,884,309	25,692,708	4,284,282,223		10,160,859,240

キャッシュ・フロー計算書

(2021年4月1日～2022年3月31日)

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増 減
I 事業活動によるキャッシュ・フロー			
1. 当期一般正味財産増減額	▲ 170,546,671	▲ 54,062,796	▲ 116,483,875
2. キャッシュ・フローへの調整額			
① 減価償却費	26,088,844	28,563,259	▲ 2,474,415
② 固定資産除却損	1	2	▲ 1
③ 退職給付等引当金額の増減額	5,674,760	13,761,250	▲ 8,086,490
④ 賞与引当金の増減額	5,354,660	▲ 7,374,700	12,729,360
⑤ 棚卸資産の増減額	4,684	▲ 580	5,264
⑥ 未収金の増減額	▲ 28,450,274	134,821,292	▲ 163,271,566
⑦ 未払金の増減額	62,065,602	▲ 24,716,471	86,782,073
⑨ 前渡金の増減額	▲ 64,220,063	29,974,645	▲ 94,194,708
⑩ 前払費用の増減額	7,334,270	▲ 7,304,540	14,638,810
⑪ 未収利息の増減額	1,155,442	93,196	1,062,246
⑫ 未払利息の増減額	▲ 20,005	▲ 50,983	30,978
⑬ 立替金の増減額	▲ 3,933	9,638	▲ 13,571
⑭ 預り金の増減額	▲ 400,823	▲ 42,715,038	42,314,215
⑮ その他非資金取引の増減額	242,979	306,542	▲ 63,563
⑯ 未払消費税等の増減額	▲ 1,804,200	▲ 10,803,400	8,999,200
⑰ 職員預り金増減額	▲ 2,563,877	▲ 7,001,866	4,437,989
小計	▲ 5,566,468	124,639,097	▲ 130,205,565
事業活動によるキャッシュ・フロー	▲ 176,113,139	70,576,301	▲ 246,689,440
II 投資活動によるキャッシュ・フロー			
1. 投資活動収入			
① 投資有価証券の償還(売却)による収入	1,100,000,000	1,300,000,000	▲ 200,000,000
② 差入保証金返還収入	—	—	—
③ 特定資産から現金預金への振替	—	196,780,917	▲ 196,780,917
投資活動収入計	1,100,000,000	1,496,780,917	▲ 396,780,917
2. 投資活動支出			
① 有形固定資産・無形固定資産取得支出	5,290,400	1,296,000	3,994,400
② 有価証券の取得による支出	—	100,000,000	▲ 100,000,000
③ 投資有価証券の取得による支出	600,000,000	1,103,407,671	▲ 503,407,671
④ 差入保証金への支出	—	89,000	▲ 89,000
⑤ 出資金の増加	207,247,410	356,172,100	▲ 148,924,690
⑥ 出資金(非資金取引)の増加額	199,500	362,694	▲ 163,194
⑦ 現金預金から特定資産への振替	168,945,583	—	168,945,583
投資活動支出計	981,682,893	1,561,327,465	▲ 579,644,572
投資活動によるキャッシュ・フロー	118,317,107	▲ 64,546,548	182,863,655
III 財務活動によるキャッシュ・フロー			
1. 財務活動収入			
財務活動収入計	—	—	—
2. 財務活動支出			
財務活動支出計	—	—	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	—	—	—
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	—	—	—
V 現金及び現金同等物の増減額	▲ 57,796,032	6,029,753	▲ 63,825,785
VI 現金及び現金同等物の期首残高	228,362,905	222,333,152	6,029,753
VII 現金及び現金同等物の期末残高	170,566,873	228,362,905	▲ 57,796,032

注) 1 資金の範囲…………… 資金の範囲には、現金及び同等物を含めている。

2 重要な非資金取引…債券償却原価(アキュムレーション・アモチゼーション) ▲242,979円

財務諸表に対する注記

1. 継続事業の前提に関する注記

該当事項はありません。

2. 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

- ・満期保有目的の債券……償却原価法(定額法)によっております。
- ・関連会社株式……移動平均法による原価法によっております。
- ・その他有価証券(時価の無いもの)……移動平均法による原価法によっております。

(2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

- ・貯蔵品……最終仕入原価法

(3) 固定資産の減価償却方法

有形固定資産……定率法を採用しております。ただし、建物並びに平成28年度4月1日以降に取得した建物付属設備および構築物については、定額法を採用しております。なお、取得価額が10万円以上20万円未満の減価償却資産については、3年間で均等償却する方法を採用しております。

無形固定資産……定額法を採用しております。

(4) 引当金の計上基準

・賞与引当金

職員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当期に帰属する額を計上しております。

・退職給付引当金

職員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務に基づき、当期末に発生していると認められる額を計上しております。

なお、退職給付債務は期末自己都合要支給額に基づき計算しております。

・役員退職慰労引当金

役員退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

(5) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理については、税抜方式によっております。

3. 会計方針の変更

該当事項はありません。

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
(基本財産)				
土 地	1,531,552,889円	— 円	— 円	1,531,552,889円
普通預金	447,111円	— 円	— 円	447,111円
基本財産合計	1,532,000,000円	— 円	— 円	1,532,000,000円
(特定資産)				
建 物	440,692,834円	— 円	9,721,163円	430,971,671円
構 築 物	26,745,844円	— 円	1,744,291円	25,001,553円
建物付属設備	62,880,064円	— 円	6,403,499円	56,476,565円
什器備品	18,447,148円	3,224,500円	4,592,977円	17,078,671円
投資有価証券	2,104,768,825円	— 円	366,242,979円	1,738,525,846円
関連会社株式	682,250,000円	— 円	— 円	682,250,000円
出 資 金	356,172,100円	207,249,050円	1,640円	563,419,510円
普通預金	20,589,480円	168,945,583円	— 円	189,535,063円
小 計	3,712,546,295円	379,419,133円	388,706,549円	3,703,258,879円
(特定費用1:インバウンド復興)				
投資有価証券	300,000,000円	— 円	9,000,000円	291,000,000円
小 計	300,000,000円	— 円	9,000,000円	291,000,000円
(特定費用2:震災後の観光復興・振興)				
投資有価証券	699,995,021円	— 円	25,000,000円	674,995,021円
小 計	699,995,021円	— 円	25,000,000円	674,995,021円
(特定資産:資産取得資金)				
投資有価証券	200,000,000円	— 円	— 円	200,000,000円
小 計	200,000,000円	— 円	— 円	200,000,000円
(特定資産:管理活動財産)				
投資有価証券	3,499,848,000円	— 円	— 円	3,499,848,000円
普通預金	152,000円	— 円	— 円	152,000円
小 計	3,500,000,000円	— 円	— 円	3,500,000,000円
特定資産合計	8,412,541,316円	379,419,133円	422,706,549円	8,369,253,900円

特定資産 科目内訳

建 物	440,692,834円	— 円	9,721,163円	430,971,671円
構 築 物	26,745,844円	— 円	1,744,291円	25,001,553円
建物付属設備	62,880,064円	— 円	6,403,499円	56,476,565円
什器備品	18,447,148円	3,224,500円	4,592,977円	17,078,671円
投資有価証券	6,804,611,846円	— 円	400,242,979円	6,404,368,867円
関連会社株式	682,250,000円	— 円	— 円	682,250,000円
出 資 金	356,172,100円	207,249,050円	1,640円	563,419,510円
普通預金	20,741,480円	168,945,583円	— 円	189,687,063円
特定資産合計	8,412,541,316円	379,419,133円	422,706,549円	8,369,253,900円

5. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次の通りであります。

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に対応す る額)
(基本財産)				
土 地	1,531,552,889円	— 円	(1,531,552,889円)	— 円
普通預金	447,111円	(30,000円)	(417,111円)	— 円
基本財産合計	1,532,000,000円	30,000円	1,531,970,000円	— 円
(特定資産)				
建 物	430,971,671円	— 円	(430,971,671円)	— 円
構 築 物	25,001,553円	— 円	(25,001,553円)	— 円
建物付属設備	56,476,565円	— 円	(56,476,565円)	— 円
什 器 備 品	17,078,671円	— 円	(17,078,671円)	— 円
投資有価証券	1,738,525,846円	— 円	(1,738,525,846円)	— 円
関連会社株式	682,250,000円	— 円	(682,250,000円)	— 円
その他投資有価証券	563,419,510円	— 円	(563,419,510円)	— 円
普通預金	189,535,063円	— 円	(189,535,063円)	— 円
小 計	3,703,258,879円	— 円	3,703,258,879円	— 円
(特定費用1:インバウンド復興)				
投資有価証券	291,000,000円	— 円	(291,000,000円)	— 円
小 計	291,000,000円	— 円	291,000,000円	— 円
(特定費用2:震災後の観光復興・振興)				
投資有価証券	674,995,021円	— 円	(674,995,021円)	— 円
小 計	674,995,021円	— 円	674,995,021円	— 円
(特定資産:資産取得資金)				
投資有価証券	200,000,000円	— 円	(200,000,000円)	— 円
小 計	200,000,000円	— 円	200,000,000円	— 円
(特定資産:管理活動財産)				
投資有価証券	3,499,848,000円	— 円	(3,499,848,000円)	— 円
普通預金	152,000円	— 円	(152,000円)	— 円
小 計	3,500,000,000円	— 円	3,500,000,000円	— 円
特定資産合計	8,369,253,900円	— 円	8,369,253,900円	— 円

6. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び期末残高は、次の通りであります。

科 目	取 得 価 額	減価償却累計額	当 期 末 残 高
建 物	486,058,260円	55,086,589円	430,971,671円
構 築 物	34,885,867円	9,884,314円	25,001,553円
建 物 付 属 設 備	122,666,059円	46,576,675円	76,089,384円
什 器 備 品	101,041,403円	77,387,566円	23,653,837円
合 計	744,651,589円	188,935,144円	555,716,445円

7. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益は、次の通りであります。

種類及び銘柄	帳簿価額	時価	評価損益
公益目的保有財産 公社債	1,738,525,846円	1,835,437,300円	96,911,454円
特定資産(特定費用) 社債	965,995,021円	1,030,779,200円	64,784,179円
特定資産(資産取得) 社債	200,000,000円	200,401,000円	401,000円
特定資産(管理活動財産) 社債	3,499,848,000円	3,436,327,300円	-63,520,700円
合 計	6,404,368,867円	6,502,944,800円	98,575,933円

8. キャッシュ・フロー計算書の資金の範囲及び重要な非資金取引

(1) 現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表とに掲載されている金額との関係は次の通りであります。

項 目	前期末	当期末
現金預金勘定	228,362,905円	170,566,873円
現金及び現金同等物	228,362,905円	170,566,873円

(2) 重要な非資金取引は次の通りであります。

項 目	前期末	当期末
債券償却原価による アキュムレーション	18,934円	207,779円
債券償却原価による アモチゼーション	325,476円	450,758円

アキュムレーション…額面と取得額の差益を残存年数で毎年均等に収益計上すること

アモチゼーション…額面と取得額の差損を残存年数で毎年均等に収益減算すること

9. 退職給付関係

(1) 採用している退職給付制度の概要

確定給付型の制度として退職一時金制度(一部企業年金制度)を採用しております。

(2) 退職給付債務及びその内訳

①退職給付債務	92,777,140円
②会計基準変更時差異の未処理額	—
合計(①+②)	92,777,140円

(3) 退職給付費用に関する事項

①勤務費用	2,538,930円
②会計基準変更時差異の費用処理額	—
合計(①+②)	2,538,930円

(4) 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

退職給付債務の計算に当たっては、退職一時金制度に基づく期末自己都合要支給額を基礎として計算しております。

10. 重要な後発事象

該当事項はありません。

11. その他

該当事項はありません。

附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細

財務諸表に対する注記『2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高』、『3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳』に記載しておりますので、附属明細書の記載は省略しております。

2. 引当金の明細

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
賞与引当金	18,262,400円	23,617,060円	18,262,400円		23,617,060円
退職給付引当金	90,238,210円	11,243,663円	8,704,733円		92,777,140円
役員退職慰労引当金	64,190,850円	14,594,170円	11,458,340円		67,326,680円
合計	172,691,460円	49,454,893円	38,425,473円	—	183,720,880円

財 産 目 録

(2022年3月31日現在)

(単位:円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)			
現金	手許保管	運転資金として(共用資産)	634,200
普通預金	みずほ銀行 大手町営業部	運転資金として(共用資産)	169,932,673
未収金	公益目的事業	受託・公益目的事業の未収分	224,282,402
	収益事業等	受託・収益事業の未収分	10,936,559
	法人会計	消費税還付	8,007,600
未収利息	債券未収利息	満期保有債券未収利息合計	19,121,689
貯蔵品	公益目的事業	頒布用の編著書籍の在庫	404,856
前渡金	公益目的事業	翌期事業の前払い分	79,651,535
前払費用	法人会計	次年度通勤費、HP作成費用等	2,857,710
立替金	法人会計	職員立替分	5,320
流動資産合計			515,904,328
(固定資産)			
基本財産			
土地	港区南青山2-7-29	公益目的事業のための事務所ビル用地	1,531,552,889
普通預金	みずほ銀行 大手町営業部	受取利息を公益目的事業に充当	447,111
基本財産合計			1,532,000,000
特定資産			
建物	港区南青山2-7-29	公益目的事業使用のため(事務所ビル)	430,971,671
構築物	港区南青山2-7-29	公益目的事業使用のため(事務所ビル)	25,001,553
建物付属設備	内部造作一式	公益目的事業使用のため(事務所ビル)	56,476,565
什器備品	器具備品類一式	公益目的事業使用のため	17,078,671
投資有価証券			
公益目的保有財産	公益目的事業財産	受取利息を公益目的事業に充当	1,738,525,846
特定費用準備資金	公益目的事業財産	受取利息を公益目的事業に充当	965,995,021
資産取得資金	公益目的事業財産	受取利息を公益目的事業に充当	200,000,000
管理活動財産	法人会計財産	受取利息を法人会計に充当	3,499,848,000
関連会社株式	株式会社JTБ 株式 1,364,500株	配当金を公益目的事業に充当	682,250,000
出資金	公益目的事業財産	配当金を公益目的事業に充当	563,419,510
普通預金			
公益目的保有財産	公益目的事業財産	特定資産を普通預金で保有	189,535,063
管理活動財産	法人会計財産	特定資産を普通預金で保有	152,000
特定資産合計			8,369,253,900

財 産 目 録

(2022年3月31日現在)

(単位:円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額
その他固定資産	建物付属設備	内部造作一式	業務使用のため 19,612,819
	什器備品	器具備品類一式	業務使用のため 6,575,166
	商標権	登録番号5688974号	財団ロゴマーク 346,095
	差入保証金	日観興業株式会社	茨城ゴルフ倶楽部会員権保証金 8,846,143
	出資金	JTB共済組合	共済基本金、住宅会計、遺児奨学金会計 (共用資産) 63,296,673
その他固定資産合計			98,676,896
固定資産合計			9,999,930,796
資産合計			10,515,835,124
(流動負債)	未払金	公益目的事業 収益事業等 法人会計	受託・公益目的事業の未払分 100,981,228
			受託・収益事業の未払分 1,613,341
			一般経費の未払分 12,583,471
	預り金	法人会計	源泉徴収諸税金・社会保険料他 5,893,363
	未払利息	職員に対するもの	職員預り金利子 (共用負債) 400,749
	前受金	公益目的事業	翌年度へ繰り越す受託事業収入 1,052,316
	賞与引当金	職員に対するもの	職員30名に対する夏期賞与の引当 及び受入出向社員の期末成果配分 (共用負債) 23,617,060
未払法人税等	税金	都税均等割 70,000	
流動負債合計			146,211,528
(固定負債)	職員預り金	職員に対するもの	職員預り金(社内預金)として (共用負債) 48,660,536
	退職給付引当金	職員に対するもの	期末時の全職員分退職手当必要額 (共用負債) 92,777,140
	役員退職慰労引当金	役員に対するもの	期末時の全役員分退任慰労金必要額 (共用負債) 67,326,680
固定負債合計			208,764,356
負債合計			354,975,884
正味財産			10,160,859,240
負債及び正味財産合計			10,515,835,124

独立監査人の監査報告書

2022年（令和4年）5月12日

公益財団法人日本交通公社

理事会 御中

黒田公認会計士事務所
東京都江東区

公認会計士

<財務諸表監査>

監査意見

私は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第23条の規定に準じて、公益財団法人日本交通公社の2021年（令和3年）4月1日から2022年（令和4年）3月31日までの第80期事業年度の貸借対照表及び損益計算書（公益認定等ガイドラインI-5(1)の定めによる「正味財産増減計算書」をいう。）、キャッシュ・フロー計算書及び財務諸表に対する注記並びに附属明細書について監査し、あわせて、貸借対照表内訳表及び正味財産増減計算書内訳表（以下、これらの監査の対象書類を「財務諸表等」という。）について監査を行った。

私は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産、損益（正味財産増減）及びキャッシュ・フローの状況を全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

私は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における私の責任は、「財務諸表等の監査における監査人の責任」に記載されている。私は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、法人から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。私は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

財務諸表に対する理事者の責任及び監事の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表等を作成するに当たり、理事者は、継続事業の前提に基づき財務諸表等を作成する事が適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に基づいて継続事業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監事の責任は、財務報告のプロセスの整備及び運用における理事の職務の執行を監視することにある。

財務諸表等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表の意見を表明する事にある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・財務諸表等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・理事者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに理事者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・理事者が継続事業を前提として財務諸表等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続事業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続事業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表等の注記事項が適切でない場合は、財務諸表等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、法人は継続事業として存続できなくなる可能性がある。
- ・財務諸表等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表等の表示、構成及び内容、並びに財務諸表等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監事に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

<財産目録に対する意見>

財産目録に対する監査意見

私は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第 23 条の規定に準じて、公益財団法人日本交通公社の2021年（令和3年）4月1日から2022年（令和4年）3月31日までの第80期事業年度の財産目録（「貸借対照表科目」、「金額」及び「使用目的等」の欄に限る。以下同じ。）について監査を行った。私は、上記の財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているものと認める。

財産目録に対する理事者及び監事の責任

理事者の責任は、財産目録を、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠するとともに、公益認定関係書類と整合して作成することにある。

監事の責任は、財産目録作成における理事の職務の執行を監視することにある。

財産目録に対する監査における監査人の責任

監査人の責任は、財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているかについて意見を表明することにある。

利害関係

法人と私との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

監 査 報 告 書

公益財団法人日本交通公社
会 長 末 永 安 生 殿

2022年5月6日

公益財団法人日本交通公社

監 事 横 山 健 幸



監 事 栗 原 秀 夫



私たち監事は、2021年4月1日から2022年3月31日までの2021年度事業年度の理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果について、以下のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

各監事は、理事、その他の使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他の重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る財務諸表（貸借対照表及び正味財産増減計算書並びにその附属明細書並びにキャッシュ・フロー計算書並びに財務諸表に対する注記（以下「財務諸表」という）、及び財産目録について検討いたしました。

2. 監査意見

- (1) 事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく表示しているものと認めます。
- (2) 理事の職務の遂行に関し、不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はありません。
- (3) 財務諸表及び財産目録は、法人の財務及び財産の状況、正味財産の増減並びにキャッシュ・フローの状況を、全ての重要な点において適正に示しているものと認めます。

以上